

⑩日本国特許庁
公開特許公報

⑪特許出願公開
昭53-55802

⑤Int. Cl.²
B 60 C 21/08

識別記号

⑥日本分類
77 B 511

厅内整理番号
7166-37

⑦公開 昭和53年(1978)5月20日

発明の数 1
審査請求 未請求

(全 7 頁)

⑧パンク防止用粘着シーラント組成物層を備えた空気入りタイヤ

31番地
峰川弘志
泉南市信達大苗代62番地31の40

⑨特 願 昭51-130323

6

⑩出 願 昭51(1976)10月27日

目録

⑪發明者 村上伸茲

泉佐野市日根野2614の1

同 上田稔

オーツタイヤ株式会社

和泉市青葉台65の2
大阪市東住吉区西今川町4丁目

泉大津市河原町9番1号

⑫代理人 弁理士 安田敏雄

明細書

1. 発明の名称

パンク防止用粘着シーラント組成物層を備えた空気入りタイヤ

場から積極的な改善がなされている。しかしながら多くの自動車事故の中には、タイヤに起因する事故も含まれており、この大部分は走行時の釘踏みによるパンクが原因となつてゐる。

現在広く普及しているチューブレスタイヤは、道路を走行中に釘等を踏み内面へ貫通しても低速走行の場合には釘が抜けにくく急激なタイヤ内圧の低下がおこらず、従来のチューブ入りタイヤに比較してかなり安全であるとされている。しかし釘が貫通したままの状態で高速道路を長時間走行した場合、あるいは極端な高速度で走行した場合には遠心力で釘が抜け急激なタイヤ内圧の低下を招き、重大な事故を招く恐れがあり非常に危険である。これに対する安全対策として種々のタイヤあるいはパンク防止法が発明考案されてきたが、その代表例としては次の2つを挙げることができる。1つはチューブレスタイヤの中に安全構成体あるいは子タイヤを備えた二重構造タイヤで、他の1つはチューブレスタイヤの接地部内面にシーラント層を設けた自己シール性タイヤである。

2. 特許請求の範囲

1. ポリイソブチレン100重量部と無機充填剤10～150重量部とバーオキサイド0.2～10重量部から成る配合ゴム組成物を熱処理して得たシーラント組成物層をタイヤ本体内面に具備したことを持てとするパンク防止用粘着シーラント組成物層を備えた空気入りタイヤ。

3. 発明の詳細な説明

本発明は釘などによるタイヤのパンクを防止する極めて高シール性の粘着シーラント組成物層を備えた空気入りタイヤに関するものである。

最近のモータリゼーションの発展には目覚ましいものがあり、それとともに車の性能向上、高速道路の整備が活発になされており、自動車用タイヤには益々高速操縦性能や安全性などが要求されている。なかでも安全性については人命尊重の立